

第3回丹波篠山市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和2年8月5日（水） 13時30分～15時23分

2 場 所

丹波篠山市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

3 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	前川 修哉
教育委員	酒井 克典
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造
教育委員	山本 恭子

4 事務局出席者

	部長	稲山 悟
	次長	酒井 宏
教育総務課	課長	中野 悟
学校教育課	課長	尾松 直樹
社会教育課	課長	小林 康弘
教育総務課	係長	田中 真紀子
教育総務課	主査	齋藤 恵美

5 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	<p>1 開会</p> <p>総合教育会議を開催したところ、お忙しい中、また暑い中お集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>(令和2年度8月補正予算についての説明)</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>本日は、前回7月8日に開催した「令和2年度第2回丹波篠山市総合教育会議」(以下「前回国議」とする。)で出していただいたご意見を基に「ガイドライン(案)」を作ってきたので、これをご覧いただいたあと意見をいただき、まとめられるようにしていきたい。</p> <p>この「ガイドライン(案)」は、酒井次長が作成したものを私が手直しをした。</p> <p>昨日出来上がり、夕刻に市役所内で部活やスポーツで頑張っている職員にも見てもらい、本日の昼前に完成したばかりである。よって教育委員の皆さんにも教育委員会事務局職員にも、たった今手渡せたところである。今受け取ったばかりですぐに内容が把握できるものではないと思うので、まずこれを私から説明させていただき、それに基づいて協議をすすめていこうと思う。</p> <p>酒井次長が作成した「ガイドライン(案)」は、主に兵庫県教育委員会の「いきいき運動部活動」から引用し、これを市に引き継いだようなものとなっている。よって独自性となるとどうかなというところもあるが、私はこれに基として、また、部活動の継続・廃止についてはこれまでから意見いただいたところを取り入れた。</p> <p>では私から、簡潔に「丹波篠山市立中学校部活動ガイドライン(案)」を説明させていただく。</p> <p>【「策定の趣旨」読み上げ】</p> <p>2段落目、「しかし」より後は、「いきいき運動部活動」から引用してある。趣旨は一般的なことを書いているが、何かあれば意見いただきたい。</p> <p>囲み枠の中で、顧問の教員と部活動指導員の両方を「顧問」とするということを定義して明記している。</p> <p>【「1 部活動の意義」読み上げ】</p> <p>【「2 部活動の位置づけ」読み上げ】</p> <p>【「3 持続可能な運営のための体制整備」「(1)各校における部活動に係る方針の策定」、「(2)活動計画及び実績報告」読み上げ】</p>

酒井次長	<p>酒井次長に確認するが、この(1)、(2)はどこからの引用か。 スポーツ庁の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」からの引用である。</p>
酒井市長	<p>【「(3) 部活動指導員の積極的な活用」読み上げ】 ここの文言は、「いきいき運動部活動」を概ね引用した。 2段落目は、教員と部活動指導員が情報共有や連絡・相談、連携を図る必要性があるので明記している。</p> <p>【「(4) 顧問の配置」読み上げ】 ここは、敢えて「複数」の顧問としている。</p> <p>【「(5) 学校運営協議会との連携」読み上げ】 これは、前回会議で意見をいただいた「学校運営協議会との連携」をここに明記した。</p> <p>【「4 指導の充実 (1)生徒を伸ばす指導、ア生徒の自主性・個性・対話を重視した指導」読み上げ】 これは、「いきいき運動部活動」にある指導の充実の一部から抜粋したものを記載し、また表にしている。</p> <p>【「イ スポーツ医・科学等の見地からの指導」読み上げ】 これも「いきいき運動部活動」からのほぼ抜粋である。</p> <p>【「ウ 特別支援教育の視点を生かした指導」、「エ 体罰・暴言・ハラスメントの根絶」読み上げ】 このウ、エは、酒井次長作成(案)をそのまま活かした。</p> <p>【「(2) ゆとりある生活の確保」読み上げ】 「ゆとりある生活の確保」という表現がよいのかわからないが、「いきいき運動部活動」に大きく記載されており、それをそのまま引用している。 次頁の、＜ノー部活動デーの取組＞は、現在本市で取り組んでいる内容を記載している。</p> <p>【「(3) 安全指導」、「ア 生徒の健康管理」読み上げ】 「いきいき運動部活動」をほとんど引用してる。</p> <p>【「イ 熱中症への対策」読み上げ】 「いきいき運動部活動」を引用してる。</p>

【「ウ 安全点検及び安全管理の徹底」、「エ 校外での活動」、「オ 重大事故発生時の対処」読み上げ】

これも一般的なことを明記している。

【「5 開かれた部活動～適切な運営のための体制整備～（1）学校のサポート体制」、（2）「学校」「家庭」「地域」の連携）読み上げ】

「いきいき運動部活動」を引用してる。

【「6 持続可能な部活動にむけて」読み上げ】

「いきいき運動部活動」を引用してる。

【「（1）部活動指導員の積極的な任用」読み上げ】

3－（3）と同じものをここでも明記している。

【「（2）合同部活動の推進」の読み上げ】

「いきいき運動部活動」を引用してる。

【「（3）部の結成と継続、廃止」読み上げ】

前回会議で協議した内容をここに入れた。

【「（4）安全で効果的な部活動の実施に向けた研修会の実施」読み上げ】

「ガイドライン(案)」については以上である。

【「（別紙1）「令和2年度丹波篠山市中学校部活動指導員配置事業 実施要項」」読み上げ】

私が「ガイドライン(案)」を修正したので、実施要項も合わせて修正した。

【（別紙2）「丹波篠山市における部活動の設置基準(案)」読み上げ】

これも総合教育会議でこれまでから議論してきたところである。

私が「ガイドライン(案)」を修正したので、設置基準(案)も合わせて修正した。「2 部活動の結成」は現実にあるかどうかは別として、廃部や継続だけでは一方的になるので、どういう場合に結成できるかについても明記した。

「3 基準部員数」で修正したところは、サッカー部、野球部、ソフトボール部である。本来大会出場人数は、11人や9人であるが、合同チームを視野に入れて、大会出場人数の半分を超えた数値としている。サッカーであれ11人の約半分の6人、野球、ソフトボールは5人とした。

	<p>「4 運動部の継続」で、男子と女子が合同で練習が可能なときや、個人種目のある協議では柔軟に対応するということを明記した。</p> <p>「5 複数合同チームの結成」では、個人種目のないバスケットボールなど種目では、第3項の基準部員数ではなく、兵庫県中学校体育連盟の規定に沿って他校との合同チームの結成を検討しようと明記し、次の囲んでいる箇所は、兵庫県中学校体育連盟」の参加規程を引用した。</p> <p>「6 文化部の継続」には文化部のことも明記した。</p> <p>「7 学校運営協議会との連携」を追記した。</p> <p>つまりは、基準部員数を野球などは合同チームを視野に配慮をしていること、これまでは基準部員数が満たされないときは即廃部と決定していたものを、男女が合同に練習できるものや、個人種目のあるものは柔軟に対応しようということ、野球などは複数校合同チームの結成をしようということを明記することによって、できるだけ柔軟に対応できるようにした。</p> <p>以上が「ガイドライン(案)」についての説明である。内容は概ね「いきいき運動部活動」からの引用である。部活動の設置基準は、これまでから議論してきたものをまとめたものである。</p> <p>これについて考えていただき、意見をいただきたい。</p> <p>まず、「ガイドライン(案)」の方で、表現であったり文言の追加であったり、何かないか。</p>
酒井委員	<p>一度聞かせてもらっただけではわからないが、酒井次長が作成した「ガイドライン(案)」は、次長が作成したというよりは学校現場と長い間討議を重ねたうえでの「ガイドライン(案)」であったと思っている。それで間違いないか。</p>
酒井次長 酒井委員	<p>間違いない。</p> <p>次長(案)は、学校現場が、部活動がうまくいかなかった時点でどのようにやっていこうかと課題を含めた個別具体的なことが書かれており、少しまどろっこしいぐらいに書かれていた。今後目指すもの、科学的な文言も含めて、(案)を対比しながら読んでみると、市長が修正された(案)はすっきりと書かれており、部活動を一生懸命積極的にやろうという後押しのような文面になっている。学校でできるだけ生徒の夢を叶えて、できるだけ部活動を積極的に参加できるような体制を組みたいという思いはわかるが、もう少し十分話をして丁寧にやっていかなければならない。基準部員数の面などこのままやってしまって、あちらの中学校もやりたい、こちらの中学校でもやりたいということになると、学校現場はそれに対して指導員も含めた対応が可能かどうかということも含め、今後丁寧に話をしていかなければいけないと思った。</p>
酒井市長 酒井委員	<p>内容についてはどうか。</p> <p>今すぐには理解できない。結局、市長が(案)変えられたというのは、市長の部活動に対する思いがあると思う。</p>

酒井市長	<p>「部活動の存続の問題について」は、総合教育会議での今までの議論を入れたので、酒井次長の作成(案)とは異なっている。</p> <p>次長作成の「ガイドライン(案)」は、「いきいき部活動」をかなり引用してあった。しかし、引用するんであればその通り引用しないといけないと思う。文章のニュアンスが変えてあったので、それを適切に引用するよう元に戻した。例えば、「積極的に使う」を、「適切にする」と書いてあった。それはニュアンスが変わってくる。そういった箇所が何点かあったので、それを意図的に一部を変更して引用するのはどうかと思ったので、基本的に引用するところは引用した。</p> <p>ただ、(案)全体を見て、見方によっては部活動を適当にせよというように捉えられたら困るなという気はした。私も特に修正しなかったが、「ノ一部活デー」はというのはよいが、練習ばかりする部活じゃなくて、「ゆとりある生活の確保」をしながら、練習はそこそこしながら短くしてやっておけよというような感じに受け取れる。「ゆとり部活動」と受け取れる。時代が変わったと言えそうかもしれないが、部活動というのが、適当に要領よくやればよいというような、そういうものになっては困ると思った。</p>
酒井委員	<p>まさにそこである。市長から本音が出たから話がしやすいが、中途半端せよと、決して部活動のことをそういう意味ではない。市長は、「学校における働き方改革に関する緊急対応」という文部科学省からの通達を読まれたことはあるか。</p>
酒井市長	<p>ない。</p>
酒井委員	<p>学校現場がこれまで通りの部活動とか、夜間業務とか、登下校業務とかたくさんのことをしていたら、教員の働く時間が大変多くなり、それに疲弊して本来のことができないという状況で、その状況を見直すために「緊急対策」が出たわけである。特に中学校の場合には、部活動のやり方というのが勤務時間をはるかにオーバーしているし、そのため現場が疲弊しきっている。この状況を是正するために、業務の在り方に関して考え方が示され、部活動というのは教育活動の一環ではあるけれども、必ずしも教員が担う必要のない業務であると、文部科学省がそういう扱いをしている。教員は役割分担された業務のなかでうまく生徒たちとの関係をつかまえて地域に任せられたり一緒にできる業務を見直すことで、どちらもうまく並び立ててやるようにと文部科学省は言っている。その方針に従って丹波篠山市教育委員会も県教育委員会も動いていると思う。市長が言われたようにどうなっているんだという思いもあるが、やはり今の教員が置かれた現場の状況というのはきっちりと把握して改革は進めていかないと非常に難しいことになると思う。</p>
酒井市長	<p>そこはちょっと意見が食い違うところで、教員が疲弊するから部活動は短くするとか、部活動は要領よくするとか、部活の数を減らすとか、それ</p>

	<p>は教員側の問題であり、それはそれで、今回は部活動指導員を顧問として位置づけて学校公務員としてやっていけばよいとしている。教員が大変だから部活動は適当にやったらいいというのは、本末末転倒である。教員が大変だから部活動も短くする、早朝練習もなし、日曜日部活をしない、要領よく部活動をしなさいというのは、教員の働き方からそうなるのであれば、何か考え方の物事が違う。この「ガイドライン(案)」の中には、例えば「一生懸命努力する」とかいうことが何も書いていない。しかし、部活動はそもそもそのようなものである。一生懸命努力するのである。一生懸命やって何も成果が出ないかもしれないが、1日1時間するよりは、1日5時間した方が素晴らしい、私は素晴らしいと思う。成果が出ようが出まいが地道にするのが部活動の尊さであって、ちょちょっとしたらいいんだというようにしたら、要領のよい人間ばかり育ててしまう。ピアノ演奏でも同じではないか。ぱっと教えてぱっと上手になる子もあれば、毎日毎日練習してやっとな上手になる子もあるから、そういう継続的な努力、地道な努力を全然無視したような、そういうことを進めるようなものにするのかと、この「ガイドライン(案)」を読んでいたら感じてしまう。行きつくところは部活動をしなくてもよいみたいになる。</p>
酒井委員	<p>正にそうである。市長が言われるようなそういう流れである、これは極端な言い方ですが。だから諸外国と比べてみて、日本の教員がどのようなことに力をいれているかという、授業時間は同じで持ち時間は諸外国と変わらないが、他のことに力を入れすぎている。だから肝心の授業、授業準備、教材研究含めてそこが抜けているから、生徒たちが学校現場で十分な力をつけてこれないという大きな考え方がある。今市長が言われたような、部活で一生懸命に汗を流してというのは昭和のある年代の話である。もっと以前は学校は部活に力を入れていなかった。教員は見ており、生徒に部活をやっておくように言うだけであった。ところがどんどん管理体制が厳しくなって、教員が全部関わらなくてはいけなくなってしまった。それに伴って教員の業務が減ったかという決して減らずに、更に新たに授業時間数は増える、夜間の仕事も増える、いっぱいすることがあったから、ここらで整理をしましょうということで、部活動も大事だけれども、部活動ばかりに時間を取られないような体制で、子供たちの夢が叶うようなことを工夫しなさいと、こういう流れである。</p>
酒井市長	<p>私は、教員が朝から晩まで出勤して、日曜日まで出勤して部活動を見なさいなんてことは思っていない。だから部活動指導員に任せたらよいと言っている。それを全部教員でしようと思うから、結局部活を少なくしていくことになる。行き着くところは、地域の人を部活動指導員などに持っていくしかないのではないかと。</p> <p>もう一つは、複数で顧問が就くとしても力の入れようがある。暑いなかでは万全の配慮をしなければいけない、試験明けの時は生徒たちが疲れて</p>

垣内委員	<p>いないかなど気を付けておかなければいけないこともあるけれど、生徒たちに任せておけばよいこともあると思う。事故を恐れて、責任追及を恐れてというところばかりが強調されているのではないかと思う。顧問が二人ついていないと裁判で負けるとか聞くが、そんなことはない。</p> <p>市長が言われることはよくわかる。「ゆとりある生活の確保」というのは確かに少し違和感がある。</p>
酒井市長 垣内委員	<p>「いきいき運動部活動」で使われている言葉なので消せなかった。</p> <p>部活動の目的としては言われるとおりがなと思うが、「勝利至上主義的な考えから」と書かれているが、部活動をしている生徒はこれだけではないと思う。市長はこのデータをお持ちなのか。</p>
前川教育長 垣内委員	<p>市長にはまだお渡ししていない。</p> <p>追手門大学の有山教授が、丹波篠山市の生徒と保護者と教師に「部活動に対するアンケート」調査をしていただいた結果を見ると、生徒たちが部活で何を学んだのかというデータが出てきている。傾向として三つに分かれている。勝利至上主義を学んだという生徒もいれば、部活の中での上下関係を学んだ、声出しや挨拶のことなど社会的なことを学んだという生徒、もう一つは、楽しみや競技としての興味を学んだという生徒もいた。そしてそれら三つがばらばらで繋がってないんだというデータが説明されている。</p>
酒井市長 前川教育長 垣内委員	<p>一方、文化部の方では、チームワークというか、部員全員で何か目標に向かって頑張ったり一生懸命するということを学ぶことが多いと書いてある。運動部についても部員全員で何か目標に向かってやっていると、親や教員は求めていたり期待をしてるんじゃないかと思うが、実際少しかけ離れているという結果が出ていることはショックだった。</p> <p>その資料を見ていなのでわからない。それはいつの資料か。</p> <p>昨年にアンケートを実施した。そしてこの春に結果がまとまった。</p> <p>私としてはその結果が大変ショックだった。部活動の目標というところを「ガイドライン」に書くのであれば、そういう文化部の生徒が学んだと言っているようなことを、運動部活動をしている生徒にも学んでほしいと思う。運動部が、我々が期待したり学んでくれていると思っていることと乖離があることが私は問題だと思う。「ガイドライン」を作るなら、そこをもう少し何とかしてほしいなと思う。もし保護者の方が、運動部入ることによって自分の子どもたちがこういうことを学んでいるのだと思ってるのであれば、そういう期待があるのであれば、少し違うということと、教員にはそこを教えてほしいなということと、教員に過度な期待を保護者がしているのであれば、それが例えば働き方の過度なものに繋がっているとすれば、そこも考えていけないといけないなと思う。</p> <p>市長が言われるように、「ゆとりある生活の確保」という書き方が少し違和感あると私も思う。</p>

酒井市長	「ゆとり学習」とかいうのであれば、生徒も勉強せずにゆっくりしておけばいいということにならないか。
垣内委員	それならストレートに「教員の働き方改革」と表現した方がよい。
酒井市長	教員のゆとりが、子どもたちのゆとりに換えられているのではないか。私は教員に全部するようには言っているのではない。
酒井委員	市長が言われることはよくわかる。
酒井市長	ノ一部活デーというのは、これは全国的なことなのか。
前川教育長	そうである。
酒井委員	これは、全国的なものである。
酒井市長	土曜日と日曜日、どちらかを休みなさいというのもそうなのか。
酒井委員	そうである。学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務というので部活動が該当する。「業務でない」ときちんと文部科学省が位置付けている。ちゃんと法令の中で、部活動の設置運営は法令上の義務ではない。部活動はこういう扱いにある。
酒井市長	わかってきた。だから校長先生は大変である。そういう通知を見たらそのようにしなければならない。
酒井委員	このような方向性の中で働き方改革を進めて、いわゆる教師本来の職務に当たれるようにしなさいという指導である。現場は苦勞する。
酒井市長	それであれば、学校現場も部活動指導員も受け入れ、それによって生徒たちがちゃんと部活ができるようにしたらよいのである。指導員の任用は困る、教員が受け持つのも困るというのはおかしい。
酒井委員	それはおかしい。それはおっしゃる通り、これはもう再三話されているが、そこの意識を変えて外部の方を入れて積極的にやっついていかないと学校現場は回らないだろう。これは国もはっきり言っているから当然のことである。
酒井市長	今年の3月に開催した総合教育会議で、中学校代表校長から、「中学校として重要なことは、学力の保障、向上、そして生徒が望んだ進路へ導くことであると考え。しかし、教室だけが学力を伸ばすことができる場という訳ではなく、部活動等の様々な体験を通して、意欲、集中力、協調性、優しさ、忍耐力、根気、社会性、達成感、自己肯定感といった非認知能力と呼ばれる力を身につけていくことが重要であると考え。」。「様々な非認知能力の向上や達成感、自己肯定感の醸成、生徒、教師のコミュニケーションなどが部活動の本来の意義、目的であり、部活動は他の活動に比べ、最適の場であると考え。」とお話いただいた。
	これは当然、部活動を認めた上で出来てきたんであろうと思う。
	ガイドライン(案)は、部活動を適当にせよみたいな感じである。読み方によっては、失礼な書き方に見える。長時間練習するのが阿保みたいな書き方である。私にはそう読める。
山本委員	市長が言われることは保護者として大変ありがたいと感じる。子ども

<p>酒井市長</p>	<p>のためを思っている。ただその反面、学校現場の話をいろいろを伺ったりすると、実際教員の方も、誰よりも、もしかして保護者よりも子どものことを思って取り組んでおられる姿も拝見して、教員の人権、生活もあるだろうにとも思う。私たち保護者もどちらかという学校の大変さというのはわかっていなくて、どうしても子どものために子どものためにと自分のことばかり思ってしまうが、教員の方も子どものためにと十分思っているから、保護者ももうちょっと学校の今の現状を理解していく必要があると感じる。</p> <p>私が聞きたいのは、長時間練習をするのは阿保みたいな書き方に見えないかと聞いているのである。教育長はどう思われるのか。</p> <p>人間は努力も大事である。卒業式に行ったら、部活に取り組んで良い実績を上げた、それは立派なことだと言う。それだけではなく、一生懸命にやったことは、それは生涯にプラスになるよ言う。近畿大会に行く生徒もいるが、そうない場合がほとんどであるなか、みんな頑張ったことそれぞれ誇りにしている。市役所でもそうである。みんなそういうふうにして頑張っている。この「ガイドライン(案)」は、見方によっては、ちょっと部活に顔を出そうというように受け取れる。それなら部活は必要ない。丹南中学校の「部活動指導について」の方がきちんと書いてある。「努力を続け、粘り強く心を耕し、体を鍛え、やりぬく意思や行動力を養う。」と、こういうことを書けばいい。こういうことが当たり前のことである。みんなそう思っている。ここが抜け落ちて簡単にしたらいいというのは違うと思う。私もこのことについては修正できていないが。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>ただ、今言われたような一生懸命汗かいてやるっていうのは大事なことであるが、いかにその中で効率よく、スポーツ医学を含めてその辺の視点で変えていかなければならない。長ければ良いというものでもないし、その中で、垣内委員が言われたような、部活そのものの目的っていうものをきっちりと考え直さないといけない。どうしても我々は、一生懸命に働いて、労働の生産性が低くても、一生懸命やることは尊いという価値観ではすまない部分も出てくる。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>私は、一生懸命働いて労働生産性が低くてもよいとは言っていない。何が尊いのかという話になるが、今甲子園で交流試合をしているが、甲子園だけが部活ではないが、何にみんなが感動するのかというと、本当に一生懸命やっているからである。一心不乱にやっているからである。それは全部同じである。その原点をまず入れないと思う。適当にやればいいんだ、短時間で部活動をせよでは、読み方によっては長時間するのは阿保かということになる。いくら成果が出なくても、長時間努力するのは尊い。</p>
<p>垣内委員</p>	<p>「部活動についてのアンケート」では、部活動というのは生徒が自分でやりたいと思う自主的な活動であると書いてある。方向性が分かれてしまって、ある生徒は勝ちたい、ある生徒は趣味でやっている、ある生徒は挨拶</p>

<p>酒井市長 垣内委員</p>	<p>撈を習うのだというようにばらばらになるのは、結局やらされている感が出てきているのではないか。勝ちたい生徒は勝手にやっておけばいい、自分たちは趣味でやっている、そんなふうにはばらばらになることは、自主的な活動になっていないからである。みんなでやっという気持ちを持っている生徒であれば、チームワークとかが作られていくのではないかと思う。自主的ではなくやらされているからとなると、挨拶をやらされているとか、処世術としてやるとかになるのではないか。</p> <p>処世術なのか。このアンケート結果はそう書いてあるのか。</p> <p>そういう生徒もいるとなっている。それは部活動の目的がおかしいし、修正も必要であると思う。もし趣味で、長時間やりたくない生徒もやっているのであれば、ある程度はゆとりも考えていかなければならないと思う。勝つためにやっている生徒だけにみんながついていっているのも、それは違うと思うので、そういう是正はあるかとは思ふ。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>今の生徒たちが純粋にやっているのか付き合いでやっているのか、付き合いでやっているとは思いたくないが、付き合いで部活をしてどうする、それならしない方がいい。勝たなくてもよい。しかし、「勝つ」という目標をみんな純粋に思うから尊いのであって、付き合いでは何も尊いことはない。そういう部活動という考え方もあるのか。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>誤解があってはいけないので言うが、生徒たちは、市長が言われる適当にしているというのは絶対にない。3年生は今代替試合があって私も観に行ったが、集中して本当に一生懸命している。努力することであったり、みんなと協力することであったり、私はこれを中学時代に味わう体験で非常に大事だと思っている。</p> <p>ただ私は練習方法は変えないといけないと思っている。もう一つは、市長は長い間練習しているのが阿保やと言われているようだとされたが、超回復というのは筋力に必ずあるので、休むことによって今まで負荷をかけていたのが絶対に伸びる。それを365日やっていたら伸びないのは当たり前前の話で、超回復というのもそれはスポーツ界では常識である。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>教育長はそう言われるが、ベースボールネットワークの練習を見てほしい。朝から晩までずっと練習している。</p>
<p>前川教育長 酒井市長</p>	<p>そういう練習をしているところもある。やり方は二つに分かれている。</p> <p>ちょっとずつ効率的にやった方が良くんだとは限らないと言いたい。それがその時期の部活である。特にオリンピックを目指しているわけではない。純粋にそれだけの目標のために一生懸命時間を費やして、みんなで一緒になってする、だから尊いのである。大人になってお金儲けのために一生懸命やるのとは違うわけであるから、そういう純粋さをなくして、適当にやるのは、部活動の本来の良さをなくしてしまうと私は言いたい。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>それは違う。生徒は、みんなでする練習時間が短かかってもその子たちは実際自分の生活の中で随分と努力している。</p>

酒井市長 前川教育長	だからそれでよいのである。
酒井市長	だから、その練習時間の長さよりも、質を求めていかなければならない。今、子供たちは質の高い生活をスポーツを通して学んでいてやっている。
前川教育長 酒井市長 前川教育長 酒井市長	私が言いたいのは、質とか合理的とかばかりを追求するものではないだろうということである。世の中、努力というものは、勉強するにしても何をするにしても、成功するためには、この本だけを1冊読んだら、これだけ勉強してやっとこれがつかめる生徒もいるわけである。それは人それぞれであって、何か効率よくちょっとやったらそれが良いというその考え方が私は気に食わない。
前川教育長 酒井市長 前川教育長 酒井市長	ちょっとやればいいなんて言っていない。 長時間部活をするというのは阿保ではないということが言いたい。 誰もそんなことは言っていない。 長時間して、やっと掴める生徒もいるし、勉強をパッとやってパッとわかる生徒もいれば、ずっと勉強してわかる生徒もいる。私もそうである。
前川教育長 酒井市長 前川教育長	反射神経を鍛えようと思ったら、何時間も何日もかかる。 話を反らしてしまって申し訳ない。
酒井市長	その部分で部活動をどうするのかと議論していたら前に進まないと思う。
前川教育長	短時間にやらなければいけないばかりに、合理性とか何かそういうことを、本来持っている中学生の純粋な心を持って、心も体も成長する時期に一つの部活動に純粋に打ち込む、それによって教室のなかで得られないものを得ていくという大切さを、私達としてはもう一度きちんと確認しないといけない。教員の大変さばかりを言っていたらどんどん部活動をしなくてもよいとなる。時代がどう変わろうと、中学校時代という一番良い時代に部活動というものの大切さは変わらないと私は思いたい。
酒井市長 酒井委員	そうである。それは前提にある。だから部活動は教育の一部であるとみんな認めている。そこでしか得られないものがある。 いろいろ言ったがそういうものであると思う。 ここで整理しておくが、市長の思いというのは本当に大事であり、教育長が言われていることも大事なことである。ただ、長時間部活動をすることは馬鹿だとかそんな話ではなく、時間のなかでうまく効率的に物事を考えて、長く活動をしたい生徒は、自分の時間に個別の練習をするとかいろんな工夫できるような部活であってほしいと思う。ただ、それを「ガイドライン」の前面に出してすぎると、世の中の流れから離れて、結局学校の中でうまく行かないと思う。文部科学省のいうノ一部活動を取り入れてやっていくようにという流れのなか、市が長時間の部活動を推進するというようなことでは、学校現場では理解得られず、学校現場は疲弊するばかりである。だから市長が言われるように外部の人材にも協力してもらってしていこうというのは大賛成である。

酒井市長	別に私は長くやれと言っているのではない。長くやるのが馬鹿だとか、阿保だということではないということを書きたいのである。特に中学校のときは、一人でボールを蹴ることも立派なことである。
前川教育長	長くやっていることを馬鹿だなんて誰も言っていない。
酒井市長	「ガイドライン(案)」には、短くするようにと書いてあるから、私がそう受けとって言っているだけである。
前川教育長	自宅でリフティングをずっとやっている生徒もいる。素振りをしている生徒もいる。色々な生徒がいる。自分の考えで取り組んでやっている。私は何もそれを馬鹿だとは一切思わない。
酒井市長	「ゆとりのある」とかいう書きぶりがそう感じる。生徒がもっと長時間部活動をやりたいと思ったらすればいいと思う。「休業日には家族とのふれあいやボランティア活動、地域活動への参加を促し」とあるが、中学生は休業日に地域活動などに参加すると思うか。
酒井委員	私はそれをさせなければいけないと思う。市長が言われているのは、市長が生まれてからの生き方の話でこれまでの話である。私の時代は、農繁期は一生懸命親の手伝いをしていた。虫を採ったり、イナゴをとって持って行ったり、それが当たり前であった。人間というのは、勉強だけしていたらよい、部活動だけしていたらいいのではなく、地域の事にも参加したりという時間を与えないといけない。これが「ゆとり」と言葉を変えているだけである。子どもは部活だけやっていたらいいのとは違う。極論を言えば溝さらえもやってほしいし、そういう活動をして丹波篠山市民の一員になるという自覚は、部活でも得られるけれども、地域活動でも得られるという意味じゃないかと思う。
酒井市長	「週あたり2日以上休養日を設定する、1日の活動時間は、平日2時間程度、土日等の休業日は3時間程度、長期休養中の休業日の設定は、学期中に準じた扱いとする、始業前の早朝練習については、過度な負担をかけないように配慮する、学校単位で参加する大会・コンクール等の見直し」、書きぶりが全体的に消極的に見える。私みたいに初めて見るものはそう見える。現実に一生懸命に野球に打ち込みたい生徒が、学校のゆとりある部活動を選ぶのか、本当に厳しい練習の部活動以外を選ぶかとなると、どちらが正念入っているのかとなる。私は長時間やれと言っているのではない。「短ければよい、効率が良ければよい」ということだけが、「いきいき運動部活動」に前面に出てしまっている。アンケート結果は知らないが、純粹に打ち込むという考えは多分今も続いていると思う。適当で付き合いで部活をやっているのであれば、多分そういう人は生涯にわたって付き合い程度の仕事しかしないのではないか。市役所に採用になっても付き合いでちょよっと仕事やるようになってしまう。
前川教育長	アンケート結果の分析の捉え方が違っている。そこは、付き合いとかじゃない。「ガイドライン(案)」の一番上に書いてある、「生涯にわたって

酒井市長	<p>スポーツや文化に親しむ基礎を育むこと」である。私も市長と同じであるが、夢中になってやったり、一生懸命にやる経験がないと親しむ基礎を育むことにはならない。それを学校現場はきちっとやっている。今出ているような手抜きとかそんなことはやっていない。本当にスポーツが好きになるようなゲームや練習が、本質に照らし合わせた練習ができなかったというのは、日本の部活動の反省である。それは変えないといけないと思う。</p> <p>自慢ではないが、私は部活動でちゃんとしたことを教えてもらったことはない。いくら努力しても、無駄な努力を重ねていただけのようなものである。だけどそれは無駄じゃない。無駄は無駄であるが、それでも無駄な努力も無駄ではないと私は思う。</p>
前川教育長	<p>指導や練習についてはどんどん新たなことが開発されていくし、新たな知見が入ってくるので、それは時代、時代だと思う。</p>
酒井市長	<p>今後は、丹波篠山市にいろんな人材がおられるので、技能も持ち、教員と同じくらいの責任感をちゃんと持ち、そして協力してくれる人を入れるしかない。教員の働き方からすると、今までのように部活動を一生懸命全部みることができないのでそれをするようにとも言えない。今までしてくれた教員には感謝している。でも全員の教員にそのようにせよと言えないのはわかる。</p>
酒井委員	<p>だから市長が言われたように、学校以外の人を入れたり、協力を求めたりというのは丹波篠山市の方向性であると思うし、もっと極論を言えば、今この種目で一生懸命に取り組みたいという生徒がいたら、スポーツ団体か何かでやってもらって、そういうスポーツ団体にお任せする部分もあってもいいんじゃないかと思う。それぞれがやりたいことも異なるし、選択肢をたくさんやっていかないとできない。</p>
前川教育長	<p>教員になってから、その種目の面白さに気づいた教師は、新たな分野であっても勉強している。今までサッカーの経験が全くなくても、たまたまサッカー部の顧問を任せられ、生徒たちと一緒にやってるうちに、自分も生徒たちと一緒にサッカーをやりたくなった教員も沢山いる。だから自分で研修に行ったりして、指導を作り上げていく。</p> <p>教育委員会が今しなければいけないことは、スポーツを楽しんでおられる市民と部活動との接点を作っていくことである。子供たちの数も減ってきているので、市民と部活動と合わせる体制を作り上げていかないと袋小路に入る気はする。</p>
酒井市長 前川教育長 酒井市長 酒井委員	<p>昔は部活動に熱心で厳しい先生がおられたが、今はおられないのか。</p> <p>今と昔では厳しさの捉え方が違うと思う。</p> <p>例えば以前の総合教育会議に来ていただいた伊勢校長は有名であった。</p> <p>過去に一生懸命だった校長先生も、適切な休養日等の設定などに取り組まなければならない。これはスポーツ庁から出ている「運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」にきっちり示してある。休養日を持ち</p>

<p>酒井市長 酒井委員</p>	<p>なさいとかいろんなことは、これは国からの方針でやってることなので、丹波篠山市だけこれに逆らうことはできない。</p> <p>逆らうつもりはない。</p> <p>長時間練習のことは一つの例であるが、やっぱりそこには教員の勤務労働問題とかいろんな諸問題があるからそれらを整理しつつ、実現可能なところで市長が提案されている、外部の人を入れたりということしか実現できない。時代の流れがこういう流れである。</p>
<p>前川教育長 酒井市長</p>	<p>市長が言われている厳しさのイメージがわからない。</p> <p>アンケートのことはわからないが、部活によっても違うかもしれないが、基本的にはそれぞれ一生懸命取り組んでいただいているということか。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>そうである。バス通学をしている生徒は時間を有効に使っていかないといけないので律している。だらだらとやってるっていうイメージはない。それだけ自分の置かれた環境をわかって、厳しく自分をコントロールしながらチーム作りをしている。部活をするなかでは意見が合わないこともあるが、強調することや我慢することであったり、そんなことを沢山学んでいる。</p>
<p>酒井市長 前川教育長 酒井市長</p>	<p>それを聞いて安心した。</p> <p>学校現場は本当に一生懸命取り組んでいる。</p> <p>では、この「ガイドライン(案)」は、「いきいき運動部活動」を引用したところが多いが、丹波篠山らしい文言を入れたらどうかというのがあれば、次回までに提出いただきたい。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>「ガイドライン」はすぐに完成できるものではない。今までのいろんな経緯があるなかでやっているし現場の思いもある。今ここで出た意見だけでもいろんな考え方の違いも明らかになった。経緯経過があるから教育委員会も一緒に見る。市長の思いは否定するものではなく、思いとして十分理解はする。ただ、昨今の流れや今までの経過も踏まえて検討していかなければいけないと思う。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>「ゆとり」が「ゆるみ」のように捉えられるという話も出たので、決して「ゆるみ」ではないという表現は考えていきたい。「ゆるみ」と捉えられたら、一生懸命生徒と向き合っている教員に誤解を与えることになる。事務局としてもそこは考えたい。また部活を通して生徒とともに伸びている教員もいるので、「ゆるみ」というニュアンスで市長に伝わっているとすれば、それは望むところではないので、文言は整理したい。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>バスの時間のために、部活時間が限られている生徒がいると先ほど教育長が言われたが、通常の部活動の活動時間を意識せざるを得ないようなバスの時間であれば、そういう生徒たちを救えるそういう手厚さは欲しい。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>それは現場から聞いている。冬時間は暗くもなってくる。でもその時間をうまく使って、それなりに自分たちで練習計画を立ててやっている。同</p>

酒井委員	<p>じ条件で活動できるようこれも機会であるので検討していく。</p> <p>せっきくの機会なので願います。そういう制約なしに生徒たちが同じ条件で活動できるような配慮があればありがたいなと思う。</p>
前川教育長	<p>部活もそうであるが、今は、自分が自分の頭できちっと考えることが大事であるので、中学校生活の時にみんな一緒になって夢中になって一生懸命にやってほしいと伝えている。一緒に自分たちで考えて作り上げていくのが一番大事だと思っている。「手抜き」とか「ゆるみ」とかそんなことじゃなくて、一生懸命生徒たちも頑張っているの、そこだけ誤解がないように言うておかないといけない。そういう生徒を育てようと教員も一生懸命やっている。</p>
酒井市長 中村委員	<p>中村委員はどうか。</p> <p>次回までにまた考えてくる。</p> <p>キーワードは、「指導員」とそれから保護者が過度に部活に関心があるので、家庭への報道とそれから合同チームがもう少し丹波篠山市の独自性が出せたらいいなと思う。将来的にスポーツ団体や社会教育との連携である。一番大切なことは、地域や保護者に共有するという事になればいいなと思う。</p>
酒井市長 酒井委員 酒井市長	<p>外国はどういう体制なのか。</p> <p>学校は全く関知せず、地域でスポーツ活動をしているところもある。</p> <p>聞くところによると、一つの部活をずっとするのではなく、夏はサッカーとか、自由にやっているようだが。</p>
前川教育長	<p>四季により自分で種目を選んでいる。その方法を取り入れられないかと担当が一度日本中学校体育連盟に尋ねたことがある。スポーツ部として設定して指導できないかと尋ねたが、日本では認められなかったと聞いている。</p>
酒井市長	<p>それは部活動は学校教育の一環だからである。地域と学校を一緒にして活動したら、その種目を一生懸命している生徒と、一生懸命していなくても運動能力が高い生徒がいたら、運動能力が高い生徒がやはり上手で試合に出てしまう。部活のあり方としてはどうかと思う。上手な人を育てるのであればクラブチームとかでよいが、学校でやる以上は、試合に勝てというのではない、勝とうが負けようがそこで一生懸命すればいいと言っている。</p>
前川教育長	<p>私は外ですればいいと言っているのではない。一つの中学校でチームができない状況が続いたので、生徒たちにいろんなスポーツを経験させたいという考え方で、例えば進級するごとに多種多様なスポーツを経験させたいと思いを作ろうとしたができなかったと聞いた。</p>
酒井市長	<p>生徒も、勉強が得意な生徒であったり、音楽が得意な生徒もあつたりする。学校のなかで勉強が苦手でもスポーツができたならヒーローである。それぞれ特技がある。外のチームでするより、みんなが知っている学校の中</p>

<p>酒井委員</p>	<p>でできる方がよい。それが学校の意味だと思う。次の進学のことを考えて中学校に行っているわけではない。特にこの当たりの中学校はそうである。特別に進学をされたい人はそこに行けばよい。しかし、ここでは普通に地域で集まって切磋琢磨してそれぞれが取り組んで、それを将来地域の中でみんなで活かしていくことが良いのではないか。よって、ただ単に運動をするというのではなく、学校の中で運動をするというのがよいのである。</p> <p>今、なぜこのような問題が起こってきたかという、そういうことを全部叶えられなくなったという現実の中で、部活がやりたいというという生徒はどうするかというなかで、選択肢とかいろいろあったと思う。だから今市長が言われるのは、これまで日本が大事にしてきた日本型学校教育である。いわゆる諸外国はいろいろな事を切っている。部活は学校ではない、掃除をすることも、生徒指導もすることはない。でも、日本には日本らしい良さがある。しかしそれを達成するためには、過度な仕事を減らし、なんとか日本型の学校教育を継続できるようなことを考えていこうというのが今回の改革だと思う。学校現場は決して手を抜いているわけじゃないし、一生懸命部活とかいろんなことに取り組んでいるが、あまり手いっぱいにしたら、本来の良さまで無くなってしまうので、一定の整理が必要になり、市長にも考えていただいている。私が今回嬉しかったのは、「学校運営協議会の連携」ということをきちっと書いてもらったことである。正直今回の問題で一番最初に学校運営協議会の中できちんと情報公開して話し合いをしておれば、ある程度理解は得られたかもしれないと思う。問題が発生した時に、事務局や市長のところへ話に行くよりも、まず地域でしっかり話し合い、お互いできることは何か、この部活を存続させたらこっちがなくなるという問題もあるけれどもその問題についてはどう思われるか、というような議論をきっちりとして進めなさいということを書いていたので、私は非常にこれはいい考えだと思う。学校だけで出来るや出来ないと決めるのは、生徒にも保護者にも地域にも理解しにくいだろうと思うので、この学校運営協議会との連携ということを書いていたのは大変大きいことだと思う。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>部活や色々なことを学校だけで全て解決することはできない。学校で教員が全て解決ができないので、特に部活は地域の方にも協力してほしい。</p> <p>「地域も家庭も協力をして」というのはそういうことであろう。そうしないと成り立たないということなんだろう。部活も部活動指導員も含めてやってほしい。それも責任を持って教員と同じ立場で見えていただく部活動指導員とし、先生の方もそれを受け入れてもらうというものが必要になってくる。</p> <p>今、高校の問題がある。市内の高校が、篠山鳳鳴高校も残念ながら選んでもらいにくいというショッキングなことになっており、何とか盛り上げて頑張ってもらいが、生徒が少なくなったら部活も少なくなり、部活で活</p>

<p>山本委員 酒井市長</p>	<p>躍できることがなくなったら、今度は部活が出来ないから市外へ行くとなってしまう。</p> <p>これからはみんなで生徒を育てていくという意識を持ちたいと思う。</p> <p>では、次回までにここはどうか、こういう意見を入れたらどうかとかあったら考えていただいて提出いただきたい。また校長にも見ていただいた。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>教育委員会では財政的な問題が一つある。以前から出ている案であるが、コーディネーター的な、部活動を全体的に見渡せるような人材に来ていただきたいという話をすると、正直、報酬が安価すぎると言われた。この報酬額では今の仕事を辞めてコーディネーターをするのは難しいと言われた。財政的なこともあるがこの話を進めてもいいか。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>来年度は、各中学校に1人トータルのな指導員を置いたらどうか。特定の部活を見る指導員ではなく、それももちろん配置すればいいが、部活全体を見て足りない部分を補充したり、みんなで手伝ってもらったりする方を教員のOBとかで配置できたらいいと思う。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>5人のスポーツだとか部活動をコーディネートできる人材がいれば、学校は随分と助かる。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>コーディネーターは配置していけばよい。ただ待遇については検討が必要だ。</p>
<p>前川教育長</p>	<p>コーディネーターと校長が話をし、そして教頭、顧問がうまくやって今後の課題をクリアしていただけたらと思う。やはり人材が必要である。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>人材の配置はやむを得ない。やむを得ないという言い方は失礼になってしまうが、市として部活動を維持してほしいと言っているのに、財政支援も人材配置もしないというわけにはいかない。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>令和3年度予算の市長査定のなかで、新規事業として、処遇とか勤務労働条件も含めて、せめて午後からだけでも教員1人配置をするということで上げてほしい。</p>
<p>酒井市長</p>	<p>本日、教職員組合の方も傍聴に来ていただいているので、「ガイドライン(案)」を見てご意見をまたいただけたらと思う。</p> <p>では、この「ガイドライン(案)」について、修正すべきところは修正して進めていきたいと思う。</p> <p>以上で、令和2年度第3回丹波篠山市総合教育会議を終了する。</p>